

今日の給食は、笹かまの磯部揚げ、豚肉とごぼうの味噌炒め、油ふり入りはっと汁、ごはん、牛乳でした。年齢とともに様々な部位に変容が現れてきましたが、わたくしの場合、「味覚」もその一つのようなようです。何となく味覚が「豊か」になったような気がするのです（気のせい?）。かつては、味のはっきりした（分かりやすい）ものを好んでいたような気がするのですが、この頃は、シンプルなものや、逆に複雑なものを好むようになった気がします。あと、苦みを好ましく感じたり、さり気ない風味に気づいたり…もしかして「進化」してる?本日の「はっと」は、出汁が効いていてとてもおいしかった。シンプルな塩味(?)のおかげで、鰹節の風味が引き立っていたように思います。もしかすると、味覚自体が「進化」したのではなく、味を理解する（受容する）ために必要な知識と経験が豊かになったのかもしれませんが（味自体は当時も感じていたが、『その味を感じていること』を認識することはできなかった…かも?）。いかんいかん、また話が面倒になったぞ。ところで、みなさまは焼き立ての「ささかま」を食べたことはありますか? 幸福なことにわたくしはあるんです。素晴らしくおいしいですので是非一度!

